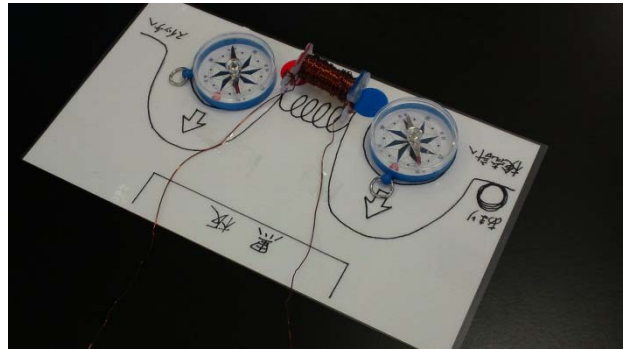
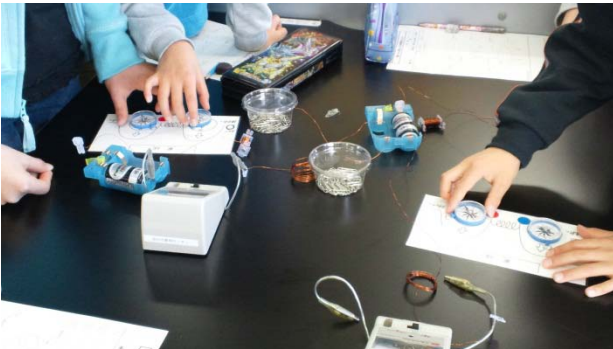
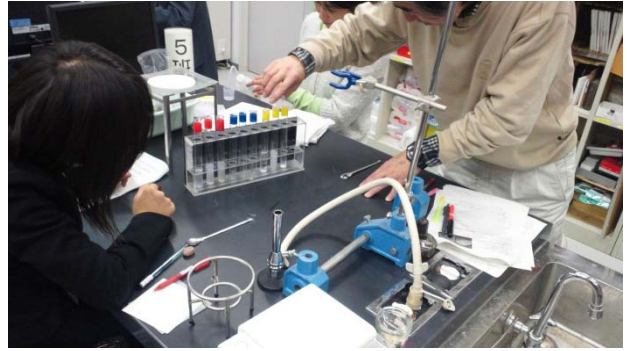
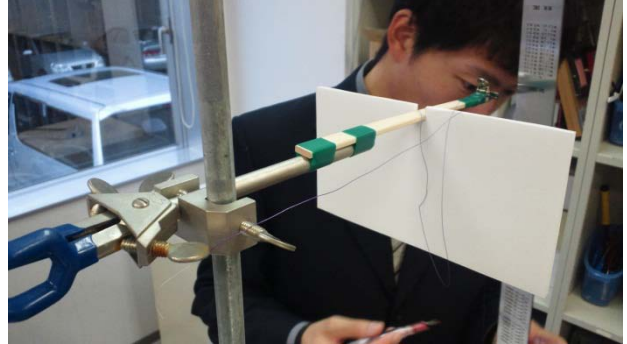


第5学年授業の取組



運営責任者 仙台市立台原小学校 川村 美智 (11月)
仙台市立西多賀小学校 戸村 隆 (2月)

授業研究部 仙台市立柳生小学校 新谷 真吾
仙台市立七北田小学校 椎名 慶

1 研究テーマとの関連

(1) 「科学的な見方や考え方を伴う、関心・意欲・態度を育てる工夫」のために

- ・ 電流や磁力などの目に見えないものをとらえやすくするため単元の第一時から検流計や方位磁針を用いて実験を行い、科学的な見方を養う。
- ・ 実験にあたっては、実験結果の掲示を工夫することにより、児童の気付きをうながす。

2 研究の課題と方向

(1) 研究について

① 11月の授業研究について

授業者の調整がつかず、仙台市科学館での授業づくりワークショップを開催した。

5学年部会としては、「物のとけ方」と「ふりこのきまり」の2単元にかかわる内容を実施した。「物のとけ方」を菅野指導主事、「ふりこのきまり」を菅原指導主事に講師を引き受けていただき、指導上の注意点や実験事例について説明していただいた。指導上難しいと感じている点などについて部会会員から事前にアンケートをとり、多かったものについての予備実験を行った。

各60分間と限られた時間の中ではあったが、参加した会員は熱心に予備実験に取り組んでいた。経験年数の比較的若い会員の中には5年生の指導を初めて行う会員もおり、先輩会員からアドバイスを受け実験上の注意点や留意点について「実感を伴った」研修を行うことができたようだった。

② 2月の授業研究について

(授業者 南材木町小学校 小原 瞳 教諭 単元名「電流がうみ出す力」)

電磁石をつくって電流を流し、棒磁石と比べながらその性質を調べることができることをねらいとして授業が行われた。指導に当たっては、実験を行う中での児童の気付きから、新しい疑問を引き出し、次の実験へとつなげるようにした。電磁石の性質で、児童におさえさせることとして、電流が流れている間は鉄を引きつけること、極ができること、電流の向きが反対になると極が反対になることの3つについて段階的な学習活動ができるような展開とした。

検討会では、「見通しをもつ」ため、実験前の予想(理由も含めて)や、実験の十分な時間の確保、電磁石が極をもつことを調べるための方法として、児童から方位磁針という方法を引き出すことなど、授業のねらいである「児童の気付き」を重視した活動内容を取り入れていく手立ても必要だったことが話し合われ、今後の課題となった。また、まとめの場面では、「電磁石、電流、極の3つの言葉を使って」など、用語としておさえさせることを提示して文章にまとめさせることも大切であるとの助言をいただいた。

(2) 部会の運営について

菅野指導主事、菅原指導主事、小原先生には、諸事情があるにもかかわらず、研修会および授業を快く引き受けていただき、大変感謝いたします。駐車場係や司会係、記録係などの仕事を行っていただいた先生方、ご苦労様でした。仙台市科学館、南材木町小学校の先生方にも、感謝申し上げます。

9月16日(金) 仙台市科学館において、内容検討会①

10月7日(金) 仙台市科学館において、内容検討会②

11月16日(水) 仙台市科学館において、授業づくりワークショップ

1月10日(火) 南材木町小学校において、指導案検討会

2月1日(水) 南材木町小学校において、授業研究、検討会